

## 教員養成の目標とそのための計画

### ○四天王寺大学

#### 1. 教員養成の目標

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、開学以来、社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この建学の精神に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

これに基づいて、本学は、教員に求められる基本的な資質能力を養い、近年の急激に変化、発展する社会の中で、教員として直面する新たな事態に対処できる能力を有する教員を養成することを目標としている。

#### 2. 上記の目標を達成するための計画

第一に、本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る「基礎教育科目」を履修する。この履修により、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる豊かな人間性を育む。

次に第二として、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習」などの「共通教育科目」を履修する。これにより、教員として必要となる豊かな教養を身につけるとともに、それを基盤として科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を修得する。

そして第三に、「専門教育科目」における必要な科目の履修により、各学校種・教科の教員に求められる高度な学識と豊かな知識を養う。具体的には次の通りである。

<教育学部 教育学科>

##### 【小学校教諭】

多様化している子ども、学校、社会のニーズに柔軟に対応できる力を持ち、「いい先生」とは何かを追求し続けることができる小学校教員を養成する。

このために、各 Semester において多様な子どもや社会を見る目を耕す科目を広く履修する。そして、大学での学修と、インターンシップから教育実習へと至る継続的な教育現場での学びを連動させながら、小学校教員としての豊かな人間性と深い専門性、理論に裏打ちされた実践力を身につける。また、学びの過程において、活動や実践を振り返り、社会や自らの課題に気づき、それらに向き合う姿勢を育てる。

### 【特別支援学校教諭】

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に、専門的に対応できる教員を養成する。さらに、特別支援学校や小中学校の特別支援学級の児童生徒だけでなく、通常の学級において特別な支援が必要な児童生徒に対して、特別支援教育の専門性に裏打ちされた子ども理解ができ、多様なニーズに対応できる教員を育成する。また、通常の学級において障害のあるなしにかかわらずクラス一人ひとりの多様性を重視し、全児童生徒が互いにかかわり、ともに学ぶ教育を実践できる教員を育てる。

このために、「特別支援教育概論」や「インクルーシブ教育の探究」など広く科目を履修する。

### 【幼稚園教諭】

保育の本質である「遊びの中での学び」を援助できる実践的指導力や、気になる子どもや多文化共生を視野に含めた多様なニーズのある子どもに応えることができる専門的知識および実践力のある幼稚園教員を育成する。

このために、「幼児理解（教育相談を含む）」や「幼児教育課程総論」、健康、人間関係、環境、言葉、表現の各領域の「保育内容の理論と方法」等の履修を通して、教育・保育現場で求められている様々なニーズに応えることができる高い専門性と豊かな人間性を育てる。

### 【中学校・高等学校教諭（英語）】

世界はグローバル化の時代に入り、英語教育の重要性は高まっている。小学校においても英語が必修化されることとなった。このような中で中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員、小学校の英語教育においても指導的な役割を果たせる教員の養成を目指す。

このために、「中等英語科教育法」においては、教育方法の理論と実践を学ぶ。加えて、教科に関する科目において「英語学概説」「英語音声学」などの科目により英語学の、「英語文学概説」「英語文学」などの科目により英米文学の高度な専門的知見を得る。そして、「ベーシックコミュニケーション」「アドバンスコミュニケーション」などの履修によりコミュニケーション能力を高める。さらに、「英語圏文化概説」「世界英語の文化圏」「異文化理解」などの科目により異文化についても理解を深め、英語教員としての高い能力を身につける。

### 【中学校・高等学校教諭（数学）】

算数・数学の内容を深く理解し、多様な子どもの違いを生かした数学的活動や、

授業を通して数学を学ぶ意義や数学の有益性も実感させることができる中学校・高等学校の教員を養成する。

このために、「代数学Ⅰ・Ⅱ」「幾何学Ⅰ・Ⅱ」「解析学Ⅰ・Ⅱ」「確率統計学Ⅰ・Ⅱ」などの数学の内容に関する科目や教科教育法Ⅰ～Ⅳを履修する。さらに、子どもの算数・数学概念の獲得のしかたを理解し、子どもの発想や疑問、想いも大切にできるようにするために「子どもの発達と算数・数学」や、数学が実社会で果たす役割を理解し課題解決できる力を身につけるための「数学的リテラシー」などの科目を履修する。

#### 【養護教諭】

救急処置、健康診断、疾病予防等の保健管理および保健教育、健康相談活動等に関わる科目を履修し、これにより、養護教諭としての専門的な知識・技能を修得するとともに、児童生徒の現代的な健康課題に対して地域の関連機関との連携を推進するコーディネーターの役割を担う能力を養成する。

#### <人文社会学部 日本学科>

##### 【中学校・高等学校教諭（国語）】

「読む・書く・聞く・話す」という「国語」の4技能にわたる高いコミュニケーション能力を有し、自己と他者との相互理解を実現することができる教員、日本文化全般にわたる幅広い知識に基づき「国語」の教育を行うことができる教員を養成する。

このために、「日本語学」「日本語文法」「講読（日本語学）」などの科目により日本語学を学び、「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文化全般にわたる文学的知識を学ぶ。そして、「国語教育論」「国語教材研究論」などの科目により教育技術・教材研究の能力を高める。

##### 【高等学校教諭（書道）】

高い実技能力と実技指導能力を持ち、書道史・書論・鑑賞法について総合的な知識を身につけた教員を養成する。

このために、「書道史」「書論・鑑賞」「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文学・日本語学・日本史・日本文化についてバランスよく習得し、書写を含む「書道」の科目を重点的に学ぶことで実技力と実技指導能力を高める。

#### <人文社会学部 国際キャリア学科>

### 【中学校・高等学校教諭（英語）】

高度な英語教育の専門的理論を学び、英語文化・語学の研究だけでなく、人間としての総合的な判断能力を培い、国際社会に役立つバランス能力を備えた教員を養成する。

このために、英語学では「英語学概説」「英語学」「英文法」を、英米文学では「英語文学概説」などを履修する。また、英語のコミュニケーション能力を高めるために、「ベーシックコミュニケーション」「アドバンストコミュニケーション」などを履修する。そして、「異文化理解」「英語圏文化概説」などの科目を通じて、異文化についての理解を深める。

### ＜人文社会学部 社会学科＞

#### 【中学校教諭（社会）】

中学校社会科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められる。このことから、日本と外国の地理や歴史、現代社会の様々な制度や仕組みについて理解する授業や、様々な社会的事象に関心を持ち、それらを多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員を養成する。

このために、「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」をバランスよく履修することで、日本と外国の歴史を関係づけて学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」の科目を履修することで、地理学について学ぶ。そして、「法学」「社会学理論」「経済学」「哲学概論」「ジェンダー論」「社会調査法」などの科目を履修することで、社会の中の幅広い対象について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「社会教科教育法」などの科目により教材研究の能力を高める。

#### 【高等学校教諭（地理歴史）】

高等学校地理歴史科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが求められる。このことから、現代社会を取り巻く様々な問題に対して、地理的・歴史的な見方・考え方に基づいて多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員を養成する。

このために、「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」などの科目を履修することで、各国の成り立ちや過去の様々な状況における人々の多様な営みと思惟について学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」などの科目を履修することで、日本をはじめとする世界各地の人々の暮らしや自然環境について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「地理歴史教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高める。

### 【高等学校教諭（公民）】

高等学校公民科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民、特に主権者としての資質・能力を育成することが求められる。このことから、現代社会を取り巻く様々な問題に対して、国際的な視野を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断し、より良い社会を構想する授業や、人間としてのあり方や生き方についての自覚を深める授業を設計し、実践できる教員を養成する。

このために、「法学」「社会学理論」「経済学」「社会心理学」「哲学概論」「ジェンダー論」「産業社会学」「家族社会学」などの科目を履修することで、幅広く現代社会について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「公民教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高める。

### <人文社会学部 人間福祉学科>

### 【高等学校教諭（公民）】

高齢化社会を迎え、福祉への関心やニーズが高まるなか、社会では知識や技術に加え、一人ひとりの気持ちに寄り添った対応ができる能力が求められる。このような能力を持ち、倫理、文化、政治、経済などの観点から思考できる教員を養成する。

このために、「法学」「政治学」「社会学概論」「経済学入門」「心理学概論」などの様々な科目の履修により、多様な観点を身につけ、「地域福祉」、「社会保障」、「公的扶助」などの関連科目により福祉に関する知識や技術を身につける。そして「臨床心理学」「カウンセリング理論」などの科目の履修により心の面についても学ぶ。

### 【高等学校教諭（福祉）】

日本社会が福祉社会であるためには、社会福祉が国民のものでなければならない。そのためには、国民が社会福祉を理解し、日本全国に福祉風土を醸成する必要がある。そして、現在では福祉ニーズが拡大・多様化・高度化している。これらに対応できる総合的な社会福祉の実現に向けた幅広い知識、および主体的に考え、公正に判断でき、実践できる力を備えた指導力のある教員を養成する。

このために、「現代社会と福祉」、「社会保障」などの科目により社会福祉学を、「高齢者福祉」、「児童・家庭福祉」、「障害者福祉」などの関連科目により高齢者、児童、障害者の福祉について学ぶ。また、「相談援助の理論と方法」、「社会福祉相談援助演習」、「介護福祉」、「介護演習」、「社会福祉相談援助実習指導」などの科目の履修により、社会福祉の理論と実践力を講義、演習、実習を通して学び、

身につける。

<看護学部 看護学科>

**【養護教諭】**

養護教諭は、児童生徒の健康管理、健康相談、保健教育などの学校保健活動を行う専門家であり、近年、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴い、児童生徒の健康問題が深刻かつ複雑化し、心身の成長・発達への課題も多岐にわたっている。また、医療ケアが必要な児童生徒数、発達障害・学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は増加しており、これらの児童が抱えている心身の問題や親子関係・友人関係等の解決にむけて、保健医療福祉の関係機関との連携・協働が求められている。

このために、看護師資格をもち、医療ケアに対応できる養護教諭を養成する。

<人文社会学部および看護学部における「教職に関する科目」>

「教職に関する科目」では、各学校種・教科の教員に応じて「教職論」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」で教育の原点を学び、教員の役割を理解する。加えて、「生徒指導論」などにより児童生徒への心のケアや指導方法、「各教科教育法」により高い教材研究能力をそれぞれ身につける。

## ○四天王寺大学短期大学部

### 1. 教員養成の目標

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、開学以来、社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この建学の精神に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

これに基づいて、本学は、仏教精神を基本とした幼稚園教諭の養成を行い、以下に示すような保育者の養成を目指している。

- ① 受容性と共感性を備え、乳幼児の成長発達への援助ができる保育者
- ② 専門的な観点から保護者の育児力に対して支援できる保育者
- ③ 5領域にわたる実践技能を備えた保育者

### 2. 上記の目標を達成するための計画

第一に、本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る「基礎教育科目」を履修する。この履修により、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる豊かな人間性を育む。

次に第二として、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習」などの「共通教育科目」を履修する。これにより、教員として必要となる豊かな教養を身につけるとともに、それを基盤として科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を修得する。

そして第三として、「基礎教育科目」「共通教育科目」で学んだことを基礎にして、「専門教育科目」において多様な科目を学ぶ。具体的には、「保育者論」「教育原理（制度的事項等を含む）」「幼児教育課程総論」などの科目により保育者としての知見や学識を身につけるとともに、6つの保育内容により実践的な技能を修得する。また、「音楽」、「図画工作」、「小児体育」などの科目により表現や健康に関する専門的知識を身につける。